

第10回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 議事録

日時：平成23年10月7日(金) 14:00～16:00

場所：三木市立教育センター 出席者：別紙のとおり

開 会

- ・ 会長より、沿線3市および加西市、加東市、西脇市、多可町の関係市町、兵庫県、神戸電鉄のトップレベルが集まり、粟生線存続の枠組みを検討する「神戸電鉄粟生線存続戦略会議」を7月末に発足し、存続のための議論を進めている旨の報告があった。

(1) 第9回協議会議事録の確認

- ・ 第9回協議会の議事概要について、議事録の確認がなされた。

(2) 報告事項

- 以下の事項について、事務局から資料に基づく報告があった。

①平成23年度（～8月）神戸電鉄粟生線の輸送人員実績

- ・ 神戸電鉄・内芝取締役より、資料-2 報告。
- ・ 9月から、神戸鈴蘭台高校（最寄駅・鈴蘭台）が校舎の耐震補強工事のため、旧・鈴蘭台西高校（同・西鈴蘭台）へ一時移転したため、8月の粟生線の通学定期人員の増加が大きくなった。同校の工事完了後も、引き続き神戸甲北高校（同・北鈴蘭台）が同様に旧・鈴蘭台西高校に一時移転する予定で、合わせて約2年間は影響が続くと見られる。

②平成23年度における協議会の取り組み状況

- ・ 事務局より、資料-3-1、資料-3-2 報告。
（報告の中で、協議会だよりに掲載の小野高校放送部制作作品が紹介された）
- ・ 各市より、資料-3-3 報告。

③平成23年度事業計画について

- ・ 事務局より、資料-4 報告。

④沿線自治会・学校等への利用啓発活動の実施状況

- ・ 事務局より、資料-5 報告。

⑤平成24年度以降の取組み方針の検討について（論点整理）

- ・ 事務局より、資料-6 報告。

(3) 意見交換

■報告事項①～④に関して

○ 委員より以下の質問・意見が出された。

- ・ 6月の粟生線の定期外人員の増加が大きい理由は何か。
⇒三木市で本年度から導入された、高齢者向けの福祉パス発行分が一括して計上されたことによる。(神戸電鉄・内芝取締役)
- ・ 三木市の福祉パス制度はどのようなものか。
⇒三木市の「神戸電鉄福祉パス」は、神戸電鉄粟生線の利用促進と高齢者(70歳以上)や障害者の外出支援を目的として本年度より導入した制度である。
該当する市民に対して、神戸電鉄線内8日間乗降フリーの乗車券もしくは「すずらんカード」(5,000円分の交通乗車カード)を、本人負担1枚あたり各500円で年間2枚まで発行するもので、既に発行枚数は7,000枚を超えている。(三木市)
⇒価格との関係はよく考える必要があるが、高齢者の人達も粟生線を利用したいと考えている人は多いということだと思う。(座長)
- ・ 一時移転先として沿線の学校を活用した校舎の耐震補強工事ができるのも、通学手段として粟生線があるからだとも言える。また、小野高校の放送作品にもあったが、鉄道により通学手段が確保されていることを認識しておくべきである。
- ・ 「おでかけガイド」で粟生線主要駅の乗降人員の推移が掲載されているが、減少している駅ばかりなので、例えば、木津駅のように増加している駅の情報も掲載してもらいたい。
- ・ 木津の複合産業団地に対しては、自転車も絡めた鉄道利用への転換の呼びかけを行っており、その推進のためにも木津の駐輪場へ屋根の設置をお願いしたい。
- ・ シニアパス、グルメスタンプラリー、校外学習、トレインフェスティバルなど、具体的な施策について、確実に利用者・参加者が増えているとの報告があったが、沿線住民にも少しずつ利用促進の効果が浸透してきているのではないか。
- ・ 沿線自治会の夏祭りにキャラクター着ぐるみを使って協議会だよりの配付等の啓発活動を行った。参加者に喜ばれるとともに、多くの住民に対して、粟生線活性化に自治会をあげて取り組んでいこうという姿勢が伝えられたと思う。
- ・ 粟生での農業体験学習についても、地域の参加小学校から喜んでいただいている。
- ・ 活性化への取り組み情報について「協議会だよりの」駅での配布や新聞折込を行っているが、なかなか目に触れにくい面もある。自治会内への回覧も効果的と思われるので、自治会でもできるだけ協力したい。

- ・ 「おもてなしきっぷ」が2か月で3,760セットも発売されている。さらに女性利用者に利用しやすい店舗サービスも考えてもらいたい。また、運賃面でも好評なので、できれば継続してもらいたい。

⇒おかげさまで発売枚数は好調であった。ただし、乗車券とセットにしたサービス券が半分ほどしか使用されておらず、日常の利用者からの転移もあると考えられるので、継続実施については、もう少し使用状況を分析したうえで検討したい。(事務局)

○ 近畿運輸局より以下のコメントがあった。

- ・ 小野高校放送部の活動やトレインフェスティバルの企画など、今まで以上に地域と一体となった利用啓発に、熱心に取り組まれていることが分かった。
- ・ 利用啓発の小冊子やポスターについても、「利用者の生活の問題」として考えてもらうようなメッセージの発信や、鉄道がなくなった場合、道路渋滞や地域の資産価値などにも影響が及ぶかもしれないという具体的なイメージを伝えるなど、沿線住民への働きかけとして有効な取り組みであると評価される。
- ・ モビリティ・マネジメントの一環として実施されたアンケートの回収率も高くなっている。
- ・ 今後、シンポジウムの開催も予定されているとのことであるが、例えば、本日報告のあった小野高校の活動発表など、利用者目線の内容で取り組んでももらいたい。
- ・ 前回会議で指摘した、自治体職員による公共交通利用への取り組み状況や、沿線自治会・高校等への働きかけの状況についても、多岐にわたる働きかけをされていることが分かった。引き続き着実な取り組みに努めてもらいたい。

- ・ 粟生線で実施される「おやじジャズトレイン」の内容について教えてもらいたい。
⇒神戸県民局の企画として「おやじジャズバンドコンテスト in 神戸」を実施しているが、今回、日本のジャズ発祥地としての神戸のPRと粟生線利用促進の話題づくりのため、本年11月3日に、同コンテスト入賞者の演奏を車内で行う臨時列車を粟生線で運行（新開地～志染間往復、事前申込制）する予定である。(神戸県民局)

○ 座長より以下のコメントがあった。

- ・ 自治体職員による通勤での粟生線利用への行動転換について、三木市と小野市で前回の報告から4名増加したとのことだが、たとえ4名であっても年間の輸送人員にすれば約2,500人規模となり効果は大きい。神戸市は既に公共交通利用に転換済とのことだが、さらに出張利用での車からの転換やノー残業デーと組み合わせた取り組みのほか、県民局職員にも働きかけを行うなど、引き続き努力してもらいたい。

■ 報告事項⑤に関して

- ・ 座長より、これまでの協議会の活性化事業については一定の成果も出てきているが、来年度以降の協議会としての取り組みを検討する際の論点として、特に、本協議会を続けていくかどうか（資料-6・論点①）ということについて、委員の意見を伺いたいとのコメントがあった。
- ・ 会長より、冒頭に報告した戦略会議は、あくまでも関係自治体と神鉄で栗生線存続のための方策を検討する場であり、地域と一体となって栗生線の活性化や利用促進をどうしていくかは、この活性化協議会で考えていくことになっており、両会議で棲み分けしていることを前提に考えてもらいたいとのコメントがあった。

○ 委員より以下の意見が出された。

- ・ 利用促進の取り組みを2年間続けてきて、やっと芽が出てきた状況なので、ここで打ち切りになるのは残念である。戦略会議の結論を踏まえざるを得ないが、国の補助が無くなっても地域でできることは続けていきたい。目標の輸送人員についても簡単にあきらめるのではなく、利用者増加に向けて努力を続けていくべきだと思う。
- ・ 協議会は、沿線地域と神鉄や自治体とを繋ぐ交流・協働の場としても意義がある。計画目標の達成はなかなか難しいが、今後も協議会を通じて、地域が一緒になって活性化を呼びかけ、取り組んでいく必要があると思う。
- ・ 三木市では地域をあげて存続を求める署名活動を行っており、小野市・神戸市とも連携して市民の声をあげていきたい。今後高齢化が進む中で、何としても鉄道は残してもらいたいと考えており、無くなってからでは遅いとの危機感をもっている。協議会については、法定協議会として継続してもらいたい。
- ・ これまでの協議会での議論や活動の積み重ねにより、三木市の署名活動のように、発足当初に比べると地域住民の関心は高まってきている。しかし、実際に栗生線の利用行動にまで十分繋がっていない面もあり、国の補助が無くなったとしても、今後も引き続き、協議会を通じて地域と一体となった情報共有、情報発信を行っていければと思う。
- ・ 小野市でも、無くなると困るので存続してもらいたいという声は多く、これら地域住民を巻き込んでいくことを考えていかねばならない。国の補助が無くなり、今までのような活動はできなくても、できることを地道に継続していくことが必要である。
- ・ 予算が無いとしても、それなりのやり方はあると思うので、地道な活動は続けていくべきである。ただし、輸送人員の当初目標値については、十分な議論がなされていなかった面もあるので、今後の取り組み方針検討にあたってはそのあたりも考慮してもらいたい。

- ・自治体としても、単費でもやれることを続けていくべきだと考える。この2年間は各種イベントなど利用促進のきっかけづくりに取り組んできたが、今後はイベントに終始するのではなく、例えばサポーター制度など、「乗って残そう」という意識の醸成や、実際に利用が定着するような仕組みの構築に重点を置くよう、取り組みの方向を見直していく必要があると思われる。

○ 座長より以下のコメントがあった。

- ・委員の皆さんから活発に意見を出してもらったが、全体としては国の補助がなくなる来年度以降も、自治体や地域が連携した取り組みとして活動を継続していこうというご意見だったと思う。
- ・ただし、「乗らないが存続させたい」というだけでは存続は難しく、「残すために乗る」もしくは「残すために負担する」ということが必要になる。高齢者や高校生など車で移動できない人たちの移動手段という意味でも鉄道は重要であり、それを残していくには、モビリティ・マネジメントの取り組みにあるように、皆が月に1回とか2回とか粟生線に乗ってもらうようにしていくことが必要である。

(4) その他

- ・次回（第11回）協議会について、1月中旬に開催日程を変更し年間4回の開催とする旨、事務局より報告があった。

閉 会

以上

第10回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 出席者（敬称略）

○委員

氏名	所属・役職	出欠
三島 功裕	神戸市企画調整局 参事	
北井 信一郎	三木市 理事	
小林 清豪	小野市 副市長	
内芝 伸一	神戸電鉄株式会社 取締役 鉄道事業本部副本部長	代理出席
中垣 千秋	押部谷町連合自治協議会会長	
中野 美都子	押部谷町連合自治協議会副会長	
蓬莱 道龍	前 三木地区区長協議会会長	
安福 恵子	三木市区長協議会連合会会長	
田中 歳彦	前 小野市連合区長会会長	
多鹿 豊	小野市商店街理事	
土井 勉	京都大学大学院 工学研究科 特定教授	

○オブザーバー

氏名	所属・役職	出欠
浪越 祐介	国土交通省 近畿運輸局 企画観光部 交通企画課長	
山本 勝	国土交通省 近畿運輸局 鉄道部 計画課長	
宮本 健一郎	兵庫県 県土整備部 県土企画局 交通政策課課長補佐	代理出席
大西 稔	兵庫県 神戸県民局 交流連携参事	
山田 貴一	兵庫県 北播磨県民局 まちむら交流参事	
竹本 真也	神戸市西区 まちづくり推進部 まちづくり課長	